

自らコミュニケーション能力を高める英語学習年間計画に基づいて

福岡県福岡市立青葉中学校

とみながみゆき

富永美由紀

【実践の内容】

生徒のコミュニケーション能力を高めるためには、生徒自身がそれを高めようとするのが大切である。そこで、自らコミュニケーション能力を高める生徒を育成するために、年間計画に基づくコミュニケーション活動の実践と評価の在り方について究明した。具体的には、年間計画に基づく6つのコミュニケーション活動を実践し、到達目標を設定・提示し、支援を行い、フィードバックとしてコミュニケーション能力の評価を行った。また、日常の授業では、コミュニケーションを基本とした学習活動を構成することにより、コミュニケーション能力を高めようとする生徒が育成されることが明らかになった。

【論文内容の紹介】

1 主題設定の理由

現代は国際化の時代であり、英語でのコミュニケーションができる能力が求められている。理解し合うためのコミュニケーションは、相手の考えを尊重し、自分の意見を率直に述べるのが大切である。したがって、自らが積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢や態度を持つことが前提となる。そこで、自らコミュニケーション能力を高める生徒を育成するために、年間計画に基づくコミュニケーション活動の実践と評価を取り入れた。

2 研究の仮説

- ・日常の授業はコミュニケーションを基本とし、生徒が英語にふれる機会を多くつくる。
- ・年間指導計画に基づいて、6つのコミュニ

ケーション活動を実践する。

- ・明確な到達目標を設定・提示し、支援を行い、フィードバックとして、コミュニケーション能力の評価を行う。

3 研究の方策と実践

(1)実践スピーチ(4・2月)

事前に原稿を見ずに行うよう支援することで、実際に全員が堂々と自分を表現することができた。この達成感が大きな自信を与えた。

(2)実践2 インタビュートスト(5・10月)

アイコンタクトをとり積極的に行えた。グループ面談の手法により、苦手な生徒も他者の返答から推測し、対話を続けることができた。

(3)実践3 プレゼンテーション(6月)

選んだテーマについて班で協力して調べ、殆ど全員が原稿を見ずに上手に説明することができた。学習に対する主体性が身についた。

(4)実践4 ディベート(11月)

生徒自身がテーマを決め、十分な準備を行うことにより、英語で堂々と自分の考えや意見を述べ、反論する姿勢が身についた。

(5)実践5 ロール・プレイ(12月)

発音に気をつけ、台詞を感情を込め、場面を考え演技するよう支援した。班の独創性も加味し、英語の運用能力の向上に効果があった。

(6)実践6 ディスカッション(1月)

辞書を使用せずにテーマについての自分の考えをまとめ、練習し、ペアを変え三度行った。反復により、スムーズな議論が可能になった。

4 研究のまとめと今後の課題

学習単元は、生徒の興味や関心を重視し、コミュニケーションの必然性が生じるものを選定する。また、コミュニケーション活動を年間計画に位置づけ、明確な到達目標を設定・提示し、支援すること、また、自己評価と相互評価によって効果的にフィードバックすることが、コミュニケーション能力を高めようとする生徒を育成するために有効である。ペアやグループワークの構成の仕方は、より有効な方法を求めて見直しが必要である。